

アヌココロ アイヌ イコロマケンル ソンコ

アヌアヌ

国立アイヌ民族博物館ニュースレター



ANUANU

017

2024.09



国立民族学博物館で、2019年秋に開催された特別展の巡回展です。北海道会場ならではのコンテンツもあわせて紹介しています。

詳しくは
2ページへ!



[第9回特別展示]

驚異と怪異

想像界の生きものたち

REGNUM IMAGINARIUM

Realm of the Marvelous and Uncanny

ミュージアム Action! / 基本展示室のこの展示を見て!! / 調査研究最前線⑩ / 博物館 Pickup!

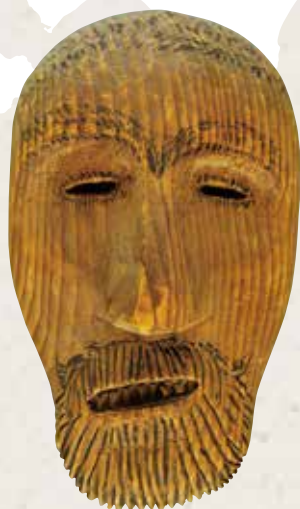
見て見て! 園内サイン⑤ / 国立アイヌ民族博物館からのお知らせ / ウポポイってこんなところ⑭

北海道会場の 見どころ！

変幻自在の怪獣「ビビちゃん」、
開拓使たちが作りだした
「北海道イメージ」関連資料、
現代のイラストレーターが描くアイヌの伝承に伝わる
クリーチャー紹介など、
北海道オリジナル・コンテンツに乞うご期待！



耳長お化け《キサラリ》(北海道)／
国立民族学博物館蔵



アイヌの中でも
千島アイヌにしか伝わっていないフジル！
仮面の下は「のっぺらぼう」。
近隣諸民族の仮面と関係か？
千島アイヌの伝承を採録した
鳥居龍蔵のフィールドノートと共に
展示される稀少な機会。

仮面(千島列島)／国立民族学博物館蔵

驚異と怪異の文化史

未知なる世界の驚異や、常ならざる怪異は、どのように描かれ、
理解されてきたのでしょうか？
博物誌や世界地図、現代アーティストたちの作品に探る、
アジア、中東、ヨーロッパの比較怪物学。



海鬼、『姫國山海録(きこくせんがいろく)』
(1762)より／東北大学附属図書館蔵



五十嵐大介「異類の行進(マーチ)」(部分)

※会期中資料替えがあります。

この世のキワにいる、かもしれない……

驚異 怪異

会期 2024 9.14 SAT. — 11.17 SUN.

- ・月曜日は休館 ※9/16(月・祝)・17(火)・23(月・祝)、10/14(月・祝)、11/4(月・祝)は開館
- ・9/14(土)～16(月・祝)、21(土)～23(月・祝)は9:00～20:00
- ・9/17(火)～20(金)、25(水)～10/31(木)は9:00～18:00
- ・11/1(金)～17(日)は9:00～17:00

会場 国立アイヌ民族博物館2階
特別展示室

観覧料 ウポバイ入場料とは別に
特別展示観覧料が必要です。
・大人/300円 ・高校生/200円 ・中学生以下/無料

【主催】国立アイヌ民族博物館、国立民族学博物館、公益財団法人千里文化財団
【後援】公益社団法人北海道アイヌ協会
【協力】市立函館博物館、千歳市教育委員会、東北大学附属図書館、徳島県立
鳥居龍蔵記念博物館、八戸市博物館、北海道大学植物園・博物館、
湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次もののけミュージアム)



詳しくは
「驚異と怪異」特設サイトをご覧ください
<https://nam.go.jp/exhibition/floor2/special/kyouui2024/>



動物形土製品[国指定重要文化財]／
千歳市教育委員会蔵

世界の霊獣・幻獣・ 怪獣が大集合!

世界各地の人びとが創り出してきた不思議な生きものたち。水に潜み、
天に羽ばたき、地を巡る、想像界の生きものの多様性を探求しよう!



舞踏劇ワヤン・オランの衣装
《ジャタユ》(インドネシア)／
国立民族学博物館蔵



動物形土製品[国指定重要文化財]／
千歳市教育委員会蔵

人? 動物?
飛んでいる?
泳いでいる?
歩いている?



張子人形《ショロショロ狐》(鳥取県)／
国立民族学博物館蔵

怪しい灯の
正体は?



半魚人は
海の死霊...

トビウオ漁用 釣具
(ソロモン諸島)／
国立民族学博物館蔵



人のように
人でない、有角人

ヴェヒガンテ衣装(プエルトリコ)／
国立民族学博物館蔵



「驚異の部屋の棚」(イメージ)

想像界の生きものたち

National Ainu Museum 9th Special Exhibition

REGNUM IMAGINARIUM
Realm of the Marvelous and Uncanny

動物界、植物界、鉱物界、 そして想像界

人類は、常識や慣習から逸脱した「異」なるものを、どのように認識し、説明し、描いてきたのでしょうか。本展は、人魚や龍、河童など、想像界の生きものの多様性について絵画や書籍、祭具などをとおして紹介し、人間の想像と創造の力の源泉を探ります。奇妙で怪しい、不気味だけどかわいい、世界の霊獣・幻獣・怪獣が大集合!

本展は、国立民族学博物館(大阪府・吹田市)にて2019年秋に開催された特別展「驚異と怪異—想像界の生きものたち」の巡回展です。

関連イベント Event

開会記念ギャラリートーク 9/14(土) 14:00-15:00

講師:山中由里子氏(国立民族学博物館 教授)
※事前申込制(先着15名)

開会記念講演会

「人はなぜモンスターを想像するのか?」 9/15(日) 14:00-15:00

講師:山中由里子氏(国立民族学博物館 教授)
※当日受付(定員50名)

民博×アイヌ博クロストーク 10/14(月・祝) 14:00-15:00

講師:山中由里子氏(国立民族学博物館 教授)×山丸ケニ氏(イラストレーター)×当館学芸員
※当日受付(定員50名)

そのほか当館職員による
ギャラリートーク等も行います。
詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。



ミュージアムAction!

国立アイヌ民族博物館では、
アイヌの歴史・文化を正しく理解していただくためにさまざまな教育普及活動を行っています。
今号は4月から配布中のワークシートと7月に開催された教員向け研修会を紹介します。

(((基本展示室のワークシート)))

基本展示室では4月より新しいワークシートの配布を行っています。今回のテーマは「チカプウタ フナラ! (とりたちをさがせ!)」です。展示室のあちこちにいる鳥や動物たちを探して、見つけたらワークシートにチェックをします。その鳥たちがアイヌ民族とどのように関わってきたのかをワークシートで確かめてみましょう。博物館では今後もさまざまなワークシートが登場予定です。ご来館の際は、ぜひチャレンジしてみてください!

※展示室の中ではインクペンは使えません。
鉛筆やシャープペンシルをご持参ください。



鳥や動物たちを探してみよう



基本展示室で配布しています

(((令和6年度『教員のための博物館の日 at 国立アイヌ民族博物館』)))



サケの教材教具の体験

博物館の教育普及活動の一環で、7月29日(月)に全国の小・中・高等学校の教員を対象とした、令和6年度『教員のための博物館の日 at 国立アイヌ民族博物館』を開催しました。当日は、現地23名、リモート14組の教員が参加しました。当館制作の指導教材(動画教材)を活用した授業事例、教材教具の活用事例紹介、博物館展示室の見学など、よりよい実践的な授業に向けて学びを深めていただきました。



指導教材を活用した授業事例の紹介



ペーパークラフト「かるたカード」の体験

基本展示室の この展示 を見て!!

「個人」から見る歴史と文化

(展示企画室 室長補佐 関口由彦)

「個人」から見る 歴史と文化

基本展示室には「個人」に関する展示があります。意外に思われるかもしれませんが、このことは、民族(俗)系の展示では決して当たり前のことではありません。最近では徐々に増えてきているようですが、これまでは、名も無き個人の集合体である民族などの歴史や文化を紹介することが一般的でした(ちなみに、当館の展示の基本方針でも「個人」については全く触れられていません)。それに対して、基本展示室では、歴史や文化の多様性に着目し、一人一人の主体的・創造的活動をも紹介しようと努めています。

「歴史」のコーナーに 見られる「個人」

「歴史」のコーナーの近現代の部分では、ストロゾフ ヤコフ、千徳太郎治、金成マツ、荒井源次郎、遠星北斗、知里幸恵、山本多助、知里真志保、野村義一、貝澤正、萱野茂といった人々を紹介しています。これによって、近現代の厳しい時代状況の中にあっても、主体的に活動を展開してきた人びとの創造性に光を当てています。しかし、その反面で、特に創造的な「個人」にばかり焦点を当ててしまうと、大きな歴史のストーリー(同化政策などによってアイヌ文化が大きな打撃を被ったという近現代史の負の側面)を見失いかねません。また、ここで取り上げられている人物はいずれも著名な方々ばかりですので、その活躍ぶりだけでアイヌ民族の近現代史を代表させてしまうことは誤解を招く恐れもあります。

イタク



「ことば」のコーナーで三大歌人(森竹竹市、遠星北斗、バチラー八重子)を紹介する展示

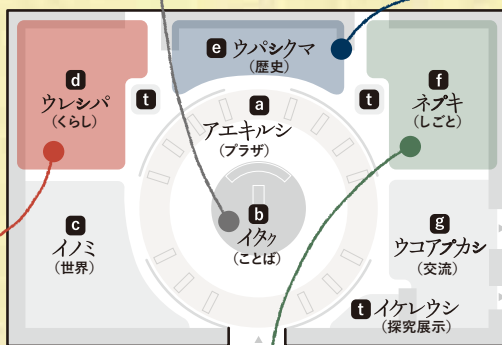
「くらし」のコーナーに 見られる「個人」

「くらし」のコーナーでは、衣服の現代作品の展示に加えて、その制作者の思いを含む作品解説を試みています。物を通して人の思いに迫る展示といえるでしょう。

(ウレシバ)



「くらし」のコーナーで現代作品と制作者の思いの展示



「しごと」のコーナーに見られる「個人」

「しごと」のコーナーでは、いわゆる「歴史上の人物」ともいえそうな著名な人物に限ることなく、さまざまな「個人」のしごとを紹介しています。そこでは、アイヌ文化に関する工芸家やミュージシャンのみならず、アイヌ文化に直接関わることなく、アイヌとしてのアイデンティティにとらわれない「個人」をも対象としています。「歴史」のコーナーとは打って変わって、歴史のストーリーに収まりきれないようなさまざまな「個人」の活躍を主としているのです。「歴史」と「しごと」のコーナーを通して、大きな歴史のストーリーと多様な「個人」の活動の両方を楽しんでいただける展示を目指しています。

(ウパシクマ)



「歴史」のコーナーでストロゾフ ヤコフ、千徳太郎治、金成マツを紹介するパネル



「歴史」のコーナーで野村義一、貝澤正を紹介するパネル

ネプキ



「しごと」のコーナーで人物としごと道具を紹介する展示(左・中央)とミュージシャンを紹介する展示(右)



キャプションには制作者の個人名が書かれています。

1~9. マキリ

小刀

Knife

小刀

작은 칼

4. 6. 7. 8. 北海道通河町 通川太八



現代の伝承者による作品の展示

Report

研究報告書『創る、伝える、つながる 私たちの芸能』を発行しました。

調査研究プロジェクト

「芸能の持続的な継承と発展に関する研究—保存会の実態調査と担い手の人材育成—」
(2021A02)

研究期間 ● 2021年4月~2024年3月

研究代表者 ● 押野 朱美 (チャック)、谷地田 未緒

研究メンバー ● 野本 正博 (レタンレク)、山道ヒビキ (オンネレク)

研究協力者 ● 甲地 利恵 [北海道博物館]

この研究プロジェクトは、「アイヌ民族の芸能を持続的に継承するにはどうしたらよいか」という現実的な問いと、より理念的な「芸能の『変容』や『舞台化』が避けられない状況で、芸能の将来的な保持・発展についてどのように考えるか」という二つの問いについて、実演者や

保存会会員など、継承の担い手と共に検討することを目的に計画され、2021年度から2023年度までの3年間（ただし実質の活動期間は合計23カ月間）に実施しました。本研究は、民族共生象徴空間（ウポポイ）という組織の体制を活かし、国立民族共生公園において実演を担う文化実践者・文化継承者と、国立アイヌ民族博物館の研究者との

対等なパートナーシップを組むことで、公園の伝承・公開機能（実演・継承・養成）と博物館の機能（展示・研究・保管）との連携を図りながら実施しました。また、アイヌの芸能に関する専門家として、北海道博物館の甲地利恵さんにご協力いただきました。

今年3月に、このプロジェクトの延べ3年間の活動を記録し、全メンバーによる考察を加えた報告書を発行しました。報告書ではまず、現在ウポポイのある白老町でアイヌの芸能を継承している二つの団体、白老アイヌ協会と白老民族芸能保存会の皆さまにお話を伺った内容を紹介します。これはプロジェ

クト2年目に実施した聞き取り調査の結果をまとめたもので、皆さまがどのように先輩世代から歌や踊りを学んだのか、それをどのような思いでこれまで継承されてきたのかをお伺いしました。次世代に文化をつなげていく役割に誇りを感じ、踊りをきっかけにさまざまな充実した経験を

する一方で、両方のグループで、踊りを踊ることで付きまとう経験についてもお伺いしました。人前で伝統衣装を着て踊ることで、妙な質問を投げかけられたり、両親や先輩が話していたアイヌ語が自分の世代では話されていない現状について考えたり、若い世代が文化活動に参加する際にいじめられたりしないだろうか



紙面構成を相談している様子



報告書表紙

心配をしたり。芸能継承の現状にはさまざまな側面があることをお話しくだしました。

報告書ではまた、ウポポイで実施されている「舞踊披露・発信事業」について、最初の2年の情報をまとめました。この事業でウポポイを訪れた10の保存会の皆さまの声を、ウポポイに提出されたアンケートを基に許可を取ってまとめ、写真とともに公開しました。「伝承の基礎」といわれている保存会の活動を、少しでも読者の皆さまに知っていただきたいと思ったからです。そのほか、『アヌアヌ』9号で報告した勉強会の記録と、5人の研究メンバーによる寄稿も掲載しています。この報告書の発行を通じて私たちが目指したかったことは二つあります。一つは各地の保存会の皆さまや、芸能を伝承している皆さまへ向けて、私たちがウポポイでゲストを招いて勉強したこと、ウポポイで起こっていることについて情報発信すること。そしてもう一つは、アイヌの芸能について知りたいという多くの人に向けて、現代社会で活動をする文化継承者・文化実践者の方々の声や実態を届けるということです。この冊子は今後、PDFでウェブサイト公開する予定ですので、多くの方に見ていただけたらうれしく思います。

(研究員 谷地田未緒)



インタビューのページ



保存会の紹介ページ

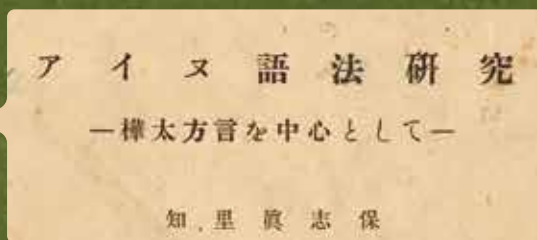
各ページの随所に細かな文字の書き込みが見られます。筆跡から、この論文の著者自身であるアイヌ語研究者・知里真志保(1909-1961)によるものであることが推測されます。

本資料は、1942年刊行の『樺太庁博物館報告』第4巻第4号に掲載されたアイヌ語に関する研究論文の別刷です。知里は、現在の登別市で生まれ、第一高等学校(旧制一高)から東京帝国大学、そして同大学院へ進学した後、中退し、女学校の教員として就職するため、樺太へと渡りました。その際、樺太庁博物館の嘱託技術員を兼任します。この論文はその頃に刊行されたものです。それ以前、学生時代(1936年)には、恩師金田一京助との

共著で『アイヌ語法概説』を発表しており、どちらもアイヌ語の文法を体系的に扱ったのですが、後から刊行されたこの論文では、「動詞」と「形容詞」をひとまとめにして「用詞」として扱うなど、新たな視点が導入されています。

まえがきには、紙幅と時間に余裕がなかったために、取り上げたい事項や必要な例を全て扱うことができず、「未完稿」であり、「いづれ機会を得て補正したいと考へてある」とあります。多くの書き込みは、この「いづれ機会を得て補正したい」という思いと関係がありそうです。例えば、p.85では目的語の単複に合わせて別々の「用詞」を使うもの(知里の記述では「客体の単・複を示すために別々の

単純用詞を用ひるもの」)は、「uk,ujna 取る。rajke,ronnu 殺す。」の2組4個であるとの説明がありますが、その下に鉛筆で「asi-roski」と書き込まれています。asiは「～を立てる」の単数形、roskiはその複数形です。該当する例として、後からメモを書き加えた可能性があります。また、表紙の「アイヌ語法研究」の「法」の部分に塗りつぶされ、その上に鉛筆書きで「の」という文字が書かれています。「アイヌ語の研究」というタイトルで新たに研究をまとめようとしていたのかもしれませんが。(研究主査 小林美紀)



タイトルに見られる書き込み

第五類「客体の単・複を示すために別々の単純用詞を用ひるもの」。これに属するものは次の二組四個の用詞のみである。uk, ujna 取る。rajke, ronnu 殺す。

asi-roskiという例の書き込み

見て見て! 園内サイン

ウポボイの園内サインをご紹介します、皆さまにより広くアイヌ語を知っていただくコーナーです!

5 カンカン いざないの回廊

ウポボイを訪れた皆さんが最初に通る「いざないの回廊」は、アイヌ語で「カンカン」という名前が付いています。カンカンは「腸」という意味です。これはいざないの回廊の形に注目して付けられた名前です。アイヌ語研究者・知里真志保の『地名アイヌ語小辞典』を見ると、カンカンは「川など小腸のように屈曲して流れている部分をいう」とあります。そして実際の地名でも、例えば平取町二風谷には看看川(かんかんがわ)という折れ曲がった川があります。地形を表したアイヌ語地名のように、いざないの回廊のくねくねした形から、カンカンというアイヌ語名が付けられました。

(学芸員 矢崎春菜)

※知里真志保『地名アイヌ語小辞典』(1984年、北海道出版企画センター) p.43



園内マップに書かれている「カンカン」

北海道民族学会奨励賞を受賞しました！

『松前家記附録外国部』の朝鮮漂客李先達関係資料について／研究員 シン ウォンジ

【研究内容と言コメント】

1696年、李先達を含む8人の朝鮮人が礼文島に漂着した事件がありました。彼らは松前藩や幕府らの協力によって本州に護送され、翌年、無事に朝鮮に送還されました。そのやりとりの諸文書や漂流民との書簡は、松前藩の史書などさまざまな文献に残されています。そのことから、松前藩にとっても、朝鮮人の漂着は重大事件であったことがわかります。

【表彰内容】

近世蝦夷地における朝鮮人漂流民に関する文献の比較研究が歴史学および文化人類学研究に大いに貢献し、また漂流民問題という国際関係史における当事者双方の国での研究にも触れていることから、事例解釈の深化および研究上の交流にも意義を有するものとして表彰されました。



ウポポイ 14

リニューアルのご案内

ウポポイでは、たくさんの方に何度も楽しく過ごしていただけるよう、時折プログラムや施設をリニューアルしています。

◆2024年にリニューアルしたプログラム＆施設

弓矢体験「アクシノッ」〈7月〜〉

これまで伝統的コタンのチセ横で開催していた弓矢体験「アクシノッ」が屋内プログラムに。天候を気にせず楽しめるようになりました。



映像体験「カムイ アイズ」〈8月〜〉

ドーム型スクリーン映像体験「カムイ アイズ」がVR（バーチャルリアリティ）ゴーグル型にリニューアルして再登場！アイヌ文化でカムイとされている動物たちの視点から見える世界を、迫力のある映像で体感できます。



たくさん遊びに来てほしいポーン♪

エントランス様インフォメーション 〈6月〜〉

ギャラリーとカフェ機能を備えたくつろぎの空間に生まれ変わりました。ウポポイ情報だけでなく、白老町の観光やアイヌ文化関連施設の情報も充実。キッズスペースもあるのでお子様も一緒にお気軽にご利用ください。



ワークシート 〈6月〜〉

衣服や家屋、アイヌ語表示などが学べるワークシートができました。来館前の事前学習にもおすすめです。国立アイヌ民族博物館には基本展示室の6つのテーマにあわせたワークシートも。じっくりアイヌ文化を学びたい方におすすめです。



人権啓発のお知らせ

アイヌの人々への理解を深め 偏見や差別のない社会を

令和元年5月に施行された「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」では、アイヌの人々へのアイヌであることを理由とした差別の禁止に関する基本理念などが新たに定められています。

法務省の人権擁護機関では、アイヌの人々に対する偏見・差別をなくし、アイヌの人々に対する理解と認識を深めるよう、人権啓発活動や人権相談（みんなの人権110番 ☎0570-003-110）、人権侵犯事件の調査救済に取り組んでいます。

令和6年10月4日(金)には、ウポポイ(民族共生象徴空間)体験学習館別館3で、アイヌにルーツを持つ方による講演およびアイヌの人々の人権に関する人権啓発動画(アコロ青春)を上映しますので、ぜひお越しください。
(主催者:札幌法務局・札幌人権擁護委員連合会・公益財団法人アイヌ民族文化財団)

法務省の人権擁護機関では、12月4日から12月10日を「人権週間」と定め、1949(昭和24)年から毎年、各関係機関および団体とも協力して、全国的に人権啓発活動を特に強化して行っています。



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

<https://nam.go.jp/>



ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

■お問い合わせ

公益財団法人 アイヌ民族文化財団(ウポポイ内)

住 所:〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3番2号

電 話:0144-82-3914 FAX:0144-82-3685

メール:info@ainu-upopoy.jp

プログラム等の詳しい情報はウポポイウェブサイトをご覧ください。

ウポポイ 検索

<https://ainu-upopoy.jp/>

